別記様式第２７　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　①

|  |
| --- |
| 非常電源（蓄電池設備）試験結果報告書試験実施日　　　　　　　　　年　　　　月　　　　日試験実施者住　　所氏　　名　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 |
| 消防用設備等の別 |  |
| 使　用　区　分 | 消防用設備等のみに使用（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　） |
| その他と共用（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　） |
| 蓄　　電　　池 | 容　　　　量 |  | 出 力 電 圧 | Ｖ |
| 種　　　　別 |  | セ　ル　数 | セル |
| 充　電　装　置 | 充 電 方 法 |  | 出 力 電 圧 | Ｖ |
| 入 力 電 圧 | Ｖ | 出 力 電 流 | Ａ |
| 逆　変　換　装　置 | 容　　　　量 | ｋＶＡ | 出 力 電 圧 | Ｖ |
| 入 力 電 圧 | Ｖ | 出 力 電 流 | Ａ |
| 直 交 変 換 装 置 | 充 電 方 法 |  | 出 力 電 圧 | Ｖ |
| 入 力 電 圧 | Ｖ | 出 力 電 流 | Ａ |
| 試　　　　験　　　　項　　　　目 | 種　別　・　容　量　等　の　内　容 | 結果 |
| 外　　　　　　　　観　　　　　　　　点　　　　　　　　検 | 設置場所等 | 設　　置　　場　　所 |  |  |
| 不燃専用室・機械室等 | 換　気　設　備 |  |  |
| 有効な防火区画 |  |  |
| 防　水　措　置 |  |  |
| 出火防止・延焼拡大防止 |  |  |
| 照明設備の有無 |  |  |
| 標　　　　　識 |  |  |
| 構　　　造　　　・　　　性　　　能 |  |  |
| 保　有　距　離（ｍ） | 　　保有距離を確保しなければなない機器等の部機器名　　　　　　　分 | 前　　　　面　　　　　　　操　作　　面 | 点　　検　　面 | 換　　気　　面 | そ の 他 の 面 |  周　　　　　囲 | 列 の 相 互 間 | 相対する面 | 変電設備又は発電設備 | 建　築　物　等 |  |
| 操　作　面 | 点　検　面 | 換　気　面 | その他の面 |
| キュービクル式 | キュービクル式以外 |
| キュービクル式 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| キュービクル式以外 | 蓄電池 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 充電装置逆変換装置直交変換装置 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |

非常電源（蓄電池設備）　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　②

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 試　　　　　験　　　　　項　　　　　目 | 種 別 ・ 容 量 等 の 内 容 | 結 果 |
| 外　　観　　点　　検 | 設置方法 | 分　　岐　　方　　法 |  |  |
| 結　　線 ・ 接　　続 |  |  |
| 表　　　　　　　　示 |  |  |
| 耐　　震　　措　　置 |  |  |
| 蓄 電 池 ・ 充 電 装 置 逆変換装置・直交変換装置等 |  |  |
| 配　　　　　　　　　線 |  |  |
| 機　　　能　　　試　　　験 | 接　　地　　抵　　抗　　試　　験 | （接地工事の種類）　　　　　接地工事　　 　　Ω |  |
| * 絶 縁

抵抗試験 | 充電装置の交流側端子と大地間 | ＭΩ |  |
| 逆変換装置の交流側端子と大地間 | ＭΩ |  |
| 直　交　変　換　装　置　の交 流 側 端 子 と 大 地 間 | ＭΩ |  |
| 直 流 側 端 子 を 大 地 間 | ＭΩ |  |
| 作動試験 | 減　液 　警 　報 　装 　置 |  |  |
| 切　　　替　　　装　　　置 |  |  |
| 備　　　　　　　　　　　　　　　考 | 試験実施者が有している資格： |

　備考　１　この用紙の大きさは，日本産業規格Ａ４とすること。

　　　　２　選択肢のある欄は，該当事項を○印で囲むこと。

　　　　３　使用区分の（　）書きは，共用している設備名を記入すること。

　　　　４　結果の欄には，良否を記入すること。

　　　　５　※印の試験は，「蓄電池設備の基準」（昭和48年消防庁告示第2号）に適合しているものとして，総務大臣又は

消防庁長官が登録した登録認定機関の認定を受けた旨の表示が付されているものにあっては，当該設備に係る部分

について省略することができる。